

H26年度 前期 教科内容特論演習(工芸)

探究活動のまとめと報告

テーマ:「まわる」

22426037 荻野絢美

I .テーマの解釈について

II .探求の過程

III .教材の提案

I .テーマの解釈について

テーマ:「まわる」

- ・自身が専門としている絵画の領域からのアプローチ
- ・教材として構想したい

→美術科の教科書や資料集に見られた
「まわる絵」・・・アニメーション に興味を持つ。

回転式の手軽なアニメーション装置

- ・フェナキストスコープ
- ・ゾートロープ

→フェナキストスコープやゾートロープを用いた
アニメーション作りの授業を探求

Ⅱ.探求の過程

はじめに資料集め

- ・教科書や資料集のアニメーションの題材
→連続写真との関連性
- ・インターネットで見つかる授業実践例
→「おどろき盤」※を使った授業やワークショップ、高等学校の映像メディア表現の授業
(※東京都写真美術館のオリジナル教材)
- ・ゾートロープやフェナキストスコープについて調べる
→ゾートロープ・・・円筒状の筒の内側に連続絵を貼り、スリットを覗きながら回して楽しむもの。
フェナキストスコープ・・・円盤を一周するように連続絵を描き、鏡の前でスリットを覗きながら回して楽しむもの。
- ・教材カタログに載っているアニメーション教材
→ゾートロープにも紐で吊るして回すもの、ビー玉で回すものなど種類がある。

→インターネットで見つけた連続絵をコピーし、ゾートロープ・フェナキストスコープを一つずつ作ってみる



ゾートロープは、厚紙などで制作し、紐で吊るし回転させることが可能。
 フェナキストスコープは、円盤状に切った厚紙の中心に、
 割り箸や角材を画鋏などでとめることで回すことができる。

(画像引用元:『感じる 表す 美術』 浜島書店 2009)



Ⅱ.探求の過程

教材としての魅力はどこにあるのか？

・インターネットの動画サイトなどで見ることのできる作例を中心に、何がアニメーションの面白さになっているのかを分析。

→人や動物，キャラクター等の「動き」または「変化」を表現したものが多くことに気づく。

そこで

- ①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作
- ②身の回りの様々な「動き」を捉えたアニメーションの制作

の2つで検討を進める。

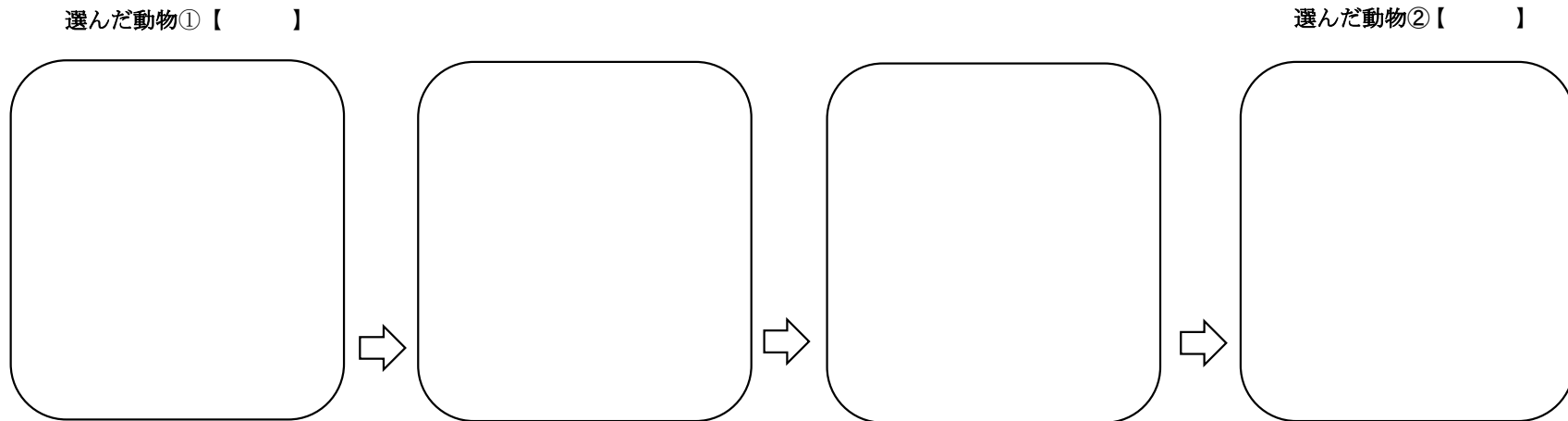
Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

導入用ワークシート

アニメーション作りのための じゅんびたいそう ～つながる絵を描こう！

- ① 好きな動物を2種類選び、その絵を一番左の□と右の□の中に描きましょう
(プリントを参考にしても良いよ！)
- ② 左の動物から右の動物に変身(メタモルフォーゼ)するように、間の絵を描いてみましょう



Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

導入用ワークシート(自分で練習したもの)

アニメーション作りのための じゅんびたいそう ~つながる絵を描こう！

- ① 好きな動物を2種類選び、その絵を一番左の□と右の□の中に描きましょう
(プリントを参考にしても良いよ！)
- ② 左の動物から右の動物に変身(メタモルフォーゼ)するように、間の絵を描いてみましょう

選んだ動物①【猫】

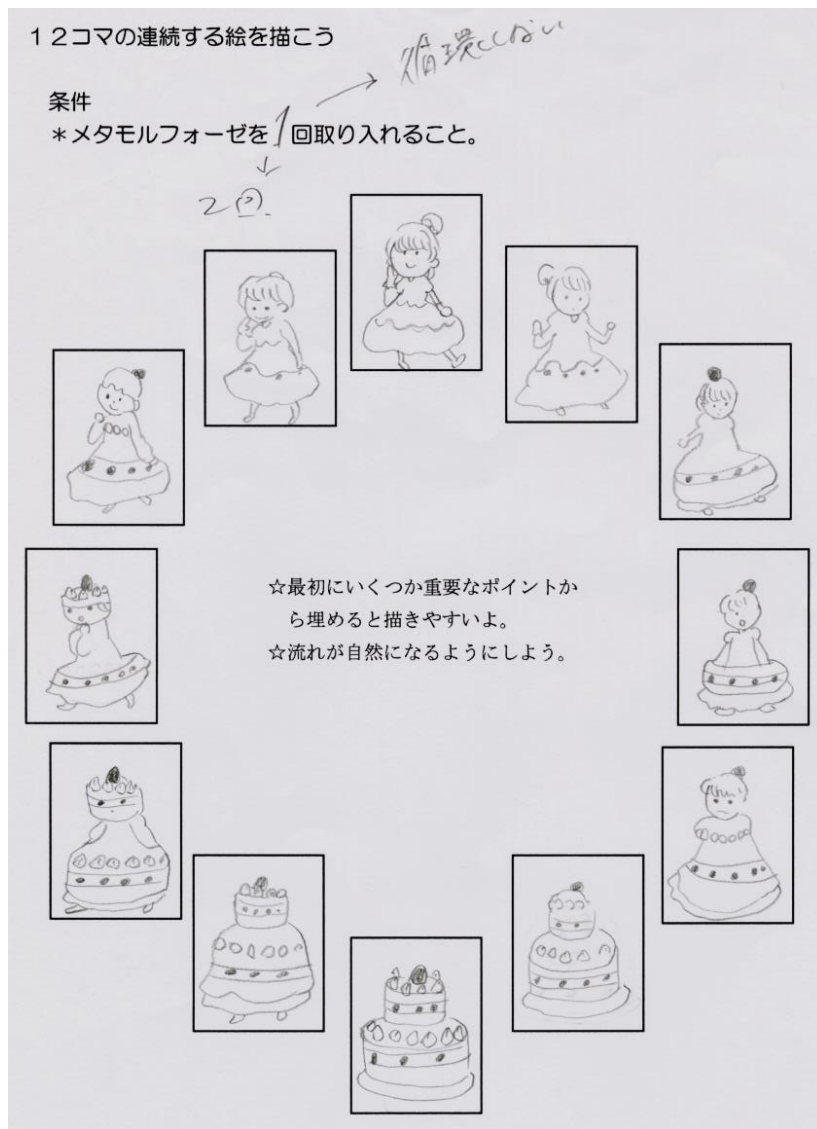


選んだ動物②【キリン】

Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

アイデアスケッチ用ワークシート
(自分で練習したもの)



女の子⇔ケーキ

絵が循環するように描く。

Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

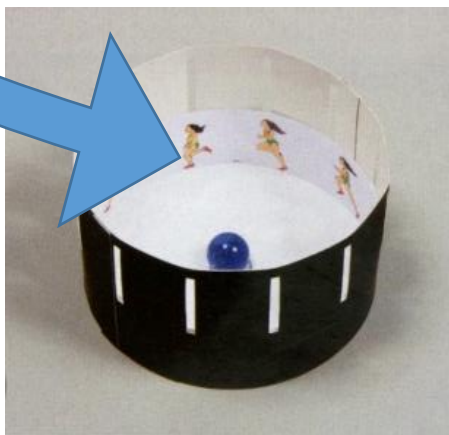
試作

ゾートロープ(新日本造形のキット「ゾートロープ ビー玉タイプ」を実験的に使用)



紙を中に丸めて入れる

底の台紙に埋め込んだ
ビー玉を掴み
コマのように回す



得たことと反省

- ・ビー玉タイプは回転が速くスムーズ
- ・キットを使うと作業が早く楽だが、サイズが小さい
- ・絵の表現が細かく回転すると識別できない

(画像引用元:新日本造形 図工・美術教材カタログ 2014年度版)

Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

試作

フェナキストスコープ(厚紙に画鋸で割り箸をとめたもの)



得たことと反省

- ・色彩が回転により混ざり合い
形態が判別しにくい。

雲⇄パン

Ⅱ.探求の過程

①形のメタモルフォーゼを取り入れたアニメーションの制作

反省点や得たこと

- ・ゾートロープとフェナキストスコープ
 - ・・・回転の安定性, 作品の完成度, 複数人で同時に見られること, 鏡が必要ないことなどからゾートロープを選択することにした。
- ・描写について
 - ・・・色彩は回転により混ざり合い判別しにくい。黒塗りのシルエットによる表現が適している。また, 細かい描写は意味をなさなかった。

→メタモルフォーゼの過程を複雑にあらわすのが難しい。

- ・絵の枚数について
 - ・・・手間や, 表現したいことの精選を考え8枚に設定。紙も大きくする。

Ⅱ.探求の過程

②身の回りの様々な「動き」を捉えたアニメーションの制作

導入用ワークシート

8枚のつながる絵でアニメーションをつくろう

テーマ 「動きを表現する」

人間や動物，自然，身の回りの道具や機械など、「動く」ものから表現してみたい「動き」を見つけよう。

条件 ①最初と最後の絵がつながって見えるようにすること。
②絵は黒塗りのシルエットで描こう。

ヒント

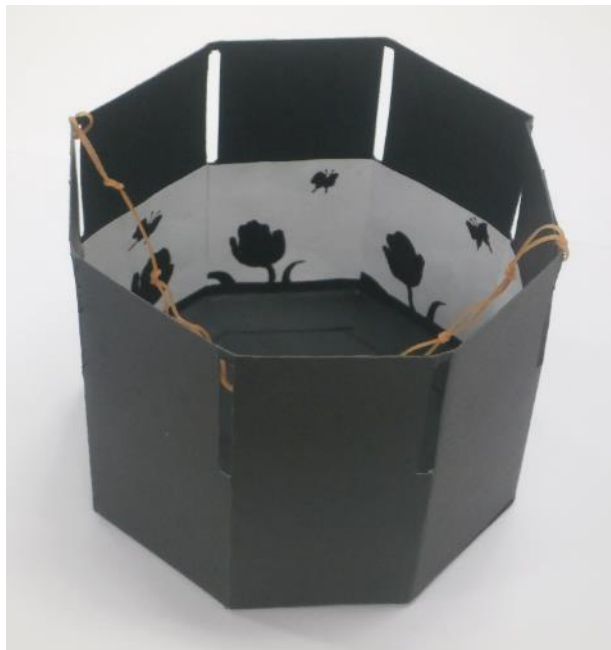
- アイデアが出ないときは，自分の好きなものから考えよう。
- 絵を描いたら机に並べて離れて見て，つながって見えるか確認しよう。
- ゾートロープの中に仮止めして回して見て，描き直すのもよい。

--	--	--	--	--	--	--	--

Ⅱ.探求の過程

②身の回りの様々な「動き」を捉えたアニメーションの制作

試作



- ・厚紙で箱を作ったため丈夫で、絵の貼り・はがしにも持ちこたえる。
- ・輪ゴムをつなげたものを紐にすると、丈夫であり、回転も持続しやすい。

- ・描写力が問われる。
→描写の技術に関わらず、手軽にアニメーションを体験できるような教材に。

H16 × W21 × D21

絵は8 × 8cm

スリットは8角形の角に計8つ

Ⅱ.探求の過程

②身の回りの様々な「動き」を捉えたアニメーションの制作

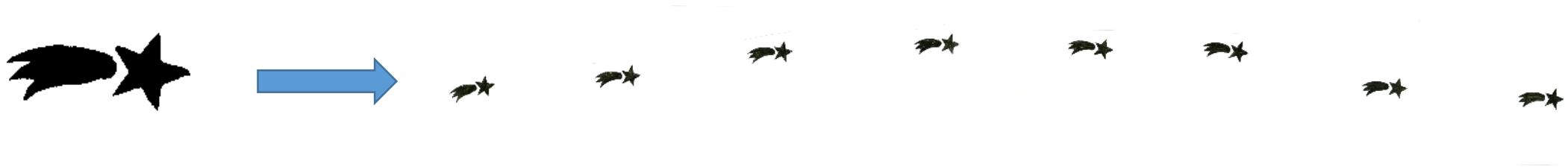
試作



Ⅱ.探求の過程

③手軽にアニメーションを体験できる教材

案1:描いた絵をスキャンしてプリントアウトし, 切り取って貼る
画像に拡大・縮小の変化をつけても良い。

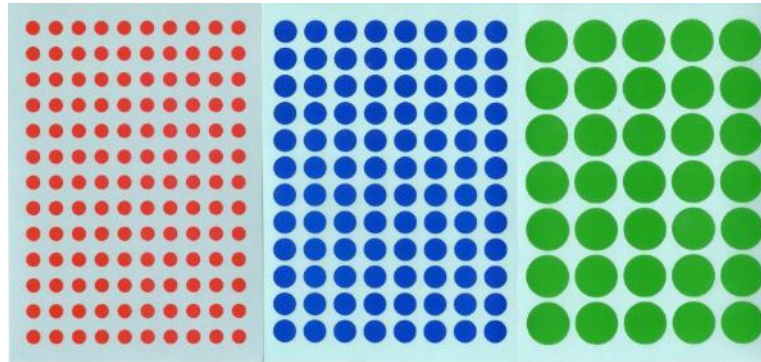


→絵が黒塗りということもあり, 表現の幅が限定されすぎる。

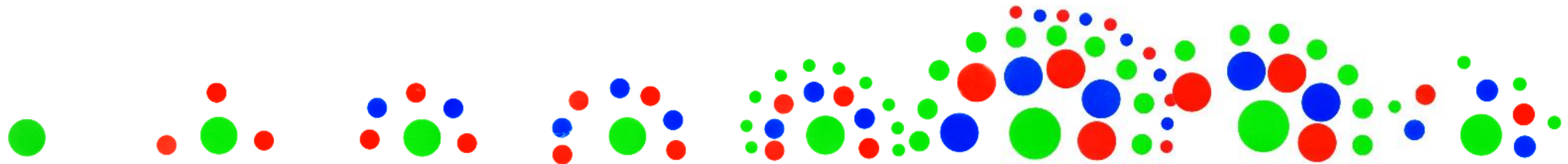
Ⅱ.探求の過程

③手軽にアニメーションを体験できる教材

案2:市販の●シールを使う



- ・大きさも種類がある
- ・色は赤, 青, 緑が回転していても見やすい



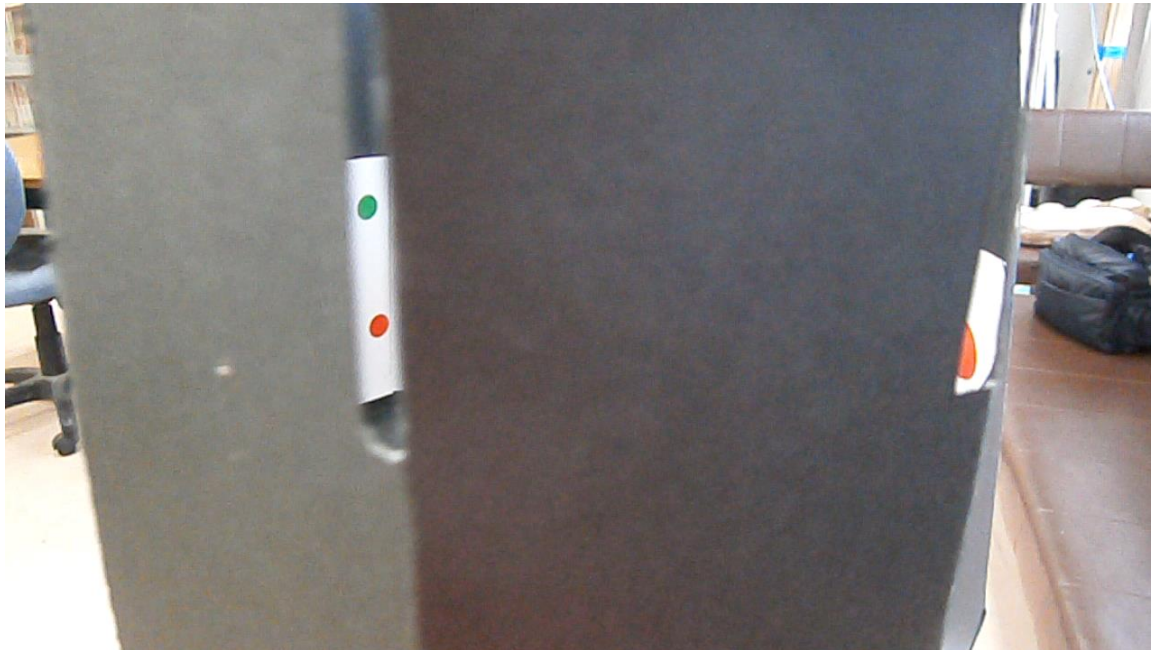
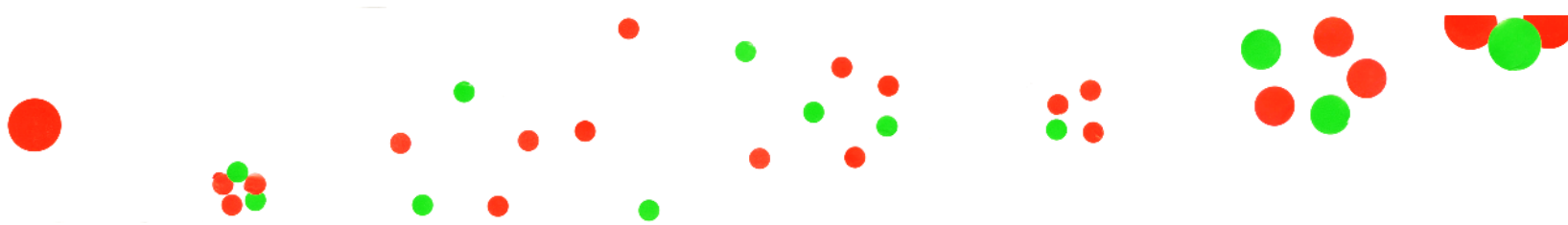
→ 方法は決定

丸が多すぎて秩序が無い。より動いているように見せるには？

Ⅱ.探求の過程

③手軽にアニメーションを体験できる教材

最終的な作品



- ・動きはなるべく大きくし、似たようなコマが続かないようにする。

Ⅲ.教材の提案

題材名「かんたん！アニメーションをつくろう」

対象学年：中1～

導入について

- ・連続写真または絵の提示
- ・その作品をゾートロープで動画化し、連続する写真または絵によって動きの表現が可能であることを伝える
- ・教師による参考作品の提示

制作について

- ・ゾートロープの箱をまず作る。できるだけ作業が単純に進められるよう設計図などを準備しておく。
- ・アイデアスケッチにこだわりすぎず、ゾートロープに貼り付けて見たときに上手くいっていない部分があれば、どんどん変化させていくようにする。

材料について

- ・箱に用いる両面黒色の画用紙はできるだけ丈夫なものにする。
- ・絵の部分は8cm×8cmの薄手の白画用紙を8枚
- ・シールは多めに準備する。
- ・ゾートロープへの紙の貼り付けは貼ってはがせるスプレーのりで行う。

相互鑑賞について

- ・教室の両端にタコ糸などを渡しS字フックで吊り下げる。班毎に作品をまとめ時間差で教室内をまわり鑑賞し、良いと感じた作品のコメントを描く。

